

令和2年度MieMuの活動と運営 各戦略・戦術一覧

計画期間(4年):2020(令和2)年度～2023(令和5)年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面4年間(＝計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までもを含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中 間		達成度	戦略を評価するための指標	評価結果		達成度	評価結果	
戦略目標		達成度	アウトカム(成果)	内部評価	外部評価	戦術	アウトプット指標	アウトプット(実績)
1	三重の魅力を明らかにするために、学芸員が館蔵資料の収集・整理・管理、調査研究を強化します(01)(A)(調査課) (資料の収集整理管理、調査研究)	1	専門家によるレビュー ・研究成果公表数の目標を達成できているのは評価される。公表できなかった学芸員がいる点については、個人の努力だけに任せず、学芸ゼミをはじめ各種機会を利用して、研究の推進を改善していただきたい。 ・一般的な研究成果の公表数だけでなく、博物館での研究にふさわしい進め方も明らかにし、共有して推進していく必要もある。博物館の研究は、1)学芸員個々の専門研究、2)今後の展示を目的にした研究、3)2)とも関わる研究資料づくり、などが考えられる。1)だけを評価するのではない、博物館にふさわしい研究の体制づくりと評価の仕組みを作る必要がある。 ・データベースの閲覧回数は目標値を上回っているが、分析についてはシステム上難しい面もある。今後も数値変化を注視すると同時に、対面での閲覧の分析を参考にするなど、質的な分析も進むように検討いただきたい。 ・文化財害虫が発見され、食害が判明したことは資料管理上重大な問題である。緊急に該当箇所の集中心点検と被害資料の除去と清掃を行い、さらなる虫害は抑止されているが、今後も確実な点検に継続的に注力する必要がある。	・研究成果公表数の目標(13回/年)は、24回と達成した。ただ、公表数が多い学芸員がいる一方で、公表できなかった学芸員が半数近くいる。 ・データベース閲覧回数は6,459回で、目標値を大きく上回った。 ・今年度新たに寄贈を受けた資料に加え、過年度より整理を進めていた資料について、人文分野、自然分野で都合304件の登録を行い、データの修正についても実施できた。 ・自然系収蔵庫内で文化財害虫が発見され、植物標本資料(コンテナ7箱)の食害が判明した。すぐに該当箇所の集中心点検を行い、虫損資料を取り除いて清掃を行った結果、収蔵庫内における文化財害虫の数は明らかに減少した。 ・自然系収蔵庫内では、現在も定期点検時に詳細な確認作業を行うとともに、フェロモントラップによる文化財害虫の追跡調査を継続して実施している。	・学芸員による館蔵資料の収集・整理・管理、調査研究の強化について、専門家(第三者)による評価では、研究成果の発表者の偏りや虫害の発生から、2との評価であった。 ・外部評価では、研究成果の公表や資料整理が進んでいることから、3と判断した。 ・虫害に関しては定期的な点検・清掃は行っていたものの、結果として発生したことは、戦略の判断基準である「アウトカム＝成果」の視点からは「達成」とは言い難く、改めて再発防止を求めたい。	1 ↓ 4	当該年度研究成果公表数 (13回/年)	24回 公表数: 1件:5名、2件:3名、3件:1名、4件:1名、6件:1名
		2 ↓ 3		2	県民・利用者の館蔵資料の活用を促進するために、学芸員が整理を進め資料データベースの充実します。(調査課)	4	データベース閲覧回数 (5,000回/年)	データベース閲覧回数 6,459回
				3	貴重な県民財産(資料)を保全・継承するため、学芸員が収蔵・展示資料の定期点検や清掃を実施します(調査課)			1 ↓ 2

令和2年度MieMuの活動と運営 各戦略・戦術一覧

計画期間(4年):2020(令和2)年度～2023(令和5)年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面4年間(＝計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間 A （三重の 魅力を知っ てもらおう 2 3	戦略目標	達成 度	戦略を評価するための指標	評価結果		戦術	達成 度	評価結果	
			アウトカム(成果)	内部評価	外部評価			アウトプット指標	アウトプット(実績)
2 3	県民・利用者に三重の 魅力を知っていただく ために、学芸員が展示 を充実します (01)(02)(03)(A)(展示 課) (展示)	2 1 3	展示観覧者アンケートで「満足度」の割合 (75%)※4段階の4のみ 平均 72%(基本展示・トピック展)	・基本展示、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となった企画展の代替展示であるトピック展ともに、来館者アンケートでの満足度は70%台であるが、目標の75%には達していない。 ・令和元年度と満足度を比較すると、基本展示(74%)は元年度(67.7%)を上回った。トピック展(平均71.0%)は元年度の企画展の満足度平均74.8%には達していないが、予算や準備時間の少なさや館蔵資料の有効活用の点を考えれば、十分に健闘したと言える。 ・来館者アンケートによれば、トピック展は約7割が来館2回目以上と回答している。県民ニーズに概ね応えられており、リピーターからも一定の満足度を得られたと考えている。 ・トピック展は、館蔵資料の有効活用や総合的な展示、三重大学との連携等を行うことができた。また、トピック展開催により展示面積と収容人数の増加を実現し、9月以降の学校団体の受入れに対応できた。	・展示における満足度は、過去、基本展示では60%代前半で推移し、最高だった昨年度でさえ67.7%、企画展示でも、過去6年間(平均68.1%)で目標を上回った例は、昨年度の「近藤喜文」(85.8%)と「三重の仏像」(78.8%)のみである。 ・今年度の実績(基本展示74%、トピック展平均71%)は、目標値(75%)には達していないが、代替開催で十分な準備期間が確保できなかったトピック展を含め、上記の過去の実績を上回る結果であったことを重視し、3と判断した。	4	2 1 3	基本展示観覧者数 (59,500人)	基本展示観覧者数26,923人
			・基本展示：満足74.0%（回答数312件） ・トピック展「クジラはいるか?」：満足70.5%（回答数325件） ・トピック展「昔の道具を考える」：満足71.4%（回答数91件）	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため移動展示を中止した。 ・令和2年度の学芸員講座は、一般を対象とした講座9件、学校を対象とした講座（出前授業等）28校合計36団体の実績があったが、いずれもアンケート調査を実施していなかった。このため、評価が不可能となっている。	・地域への愛着を育むための戦略については、事業における利用者の満足度を指標に評定することになっていたが、戦術6は事業中止、戦術7はデータ取得のためのアンケートが実施できておらず、「評価不能」と判断した。 ・事業中止は致し方ないにしても、アンケート結果による評価ができなかったことに対しては、再発防止と次年度以降の確実な実施を求めたい。	5	2 1 3	企画展示観覧者数 (60,000人) ※3回/年	中止した展覧会を補完するものとして実施したトピック展 ※総観覧者数 21,672人(達成率36%) (1)トピック展「クジラはいるか?」 令和2年8月1日(土)～令和2年11月29日(日)ノ観覧者数17,209人 (開館日数104日ノ1日平均165人) (2)トピック展「昔の道具を考える」 令和2年12月19日(土)～令和3年2月28日(日)ノ観覧者数4,463人 (開館日数56日ノ1日平均79人)
3	自分たちがくらす地域 への愛着を育むため に、学芸員が県内各地 域へのアウトリーチ活 動を充実します(03)(A) (展示課) (アウトリーチ)	1 1 1	利用者(参加者)が「満足した」割合(75%)※4 段階の4のみ 計測不可	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため移動展示を中止した。 ・令和2年度の学芸員講座は、一般を対象とした講座9件、学校を対象とした講座（出前授業等）28校合計36団体の実績があったが、いずれもアンケート調査を実施していなかった。このため、評価が不可能となっている。	・地域への愛着を育むための戦略については、事業における利用者の満足度を指標に評定することになっていたが、戦術6は事業中止、戦術7はデータ取得のためのアンケートが実施できておらず、「評価不能」と判断した。 ・事業中止は致し方ないにしても、アンケート結果による評価ができなかったことに対しては、再発防止と次年度以降の確実な実施を求めたい。	6	1 ↓ 1	開催市町の人口に対する利用者の割合 (3%切上:500人) ※2020多気町人口14,291人	開催中止としたため 0人
			・移動展示は来場者アンケートを予定したが、中止となったため、満足度の集計はできなかった。 ・学芸員講座について、アンケートを実施していなかったため、利用者の満足度を集計することができなかった。	・今年度11月に、館HPに「学芸員講座のご案内」を掲載し、募集を行った。その結果、36団体1,568人の利用を得て、目標値の1,040人を超えることができた。 ・館HPに学芸員講座の内容・方法を掲載することで、館内の事務処理と館外への対応が明確になった。 ・出張講座を優先し、事前に決まった会議に参加できない場合等があり、館内で運用方法を検討する必要がある。 ・オンラインの学芸員講座についての対応を検討していきたい。 ・講座アンケート調査を実施していなかった。	・年度の前半に県内の学校が 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、休校となったため、今年度予定していた多気町内の小学校との地域調査はすべて実施ができず、移動展示自体の開催を見送り、令和3年度に延期することとした。 ・令和元年度に実施したお雑煮調査結果については、町内の小中学校に報告するとともに、概要版を小学校全児童と中学校1年生生徒に配布した。	・企画展は、早い段階で開催予定の3本がすべて中止を余儀なくされる中で、代替のトピック展2本を開催できたことは評価できる。 ・特に「クジラ」展では、総合博物館としての特徴や三重大学との連携効果を活かし、直近の自然科学系の企画展を上回る観覧者(17,209人)を獲得できたことも考慮し、3と判断した。			

令和2年度MieMuの活動と運営 各戦略・戦術一覧

計画期間(4年):2020(令和2)年度～2023(令和5)年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面4年間(＝計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン
三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。 この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。 三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標		評価結果			達成度	評価結果		
				アウトカム(成果)		内部評価	外部評価	戦術		アウトプット指標	アウトプット(実績)	
(B)館を利用してもらう	4	県民・利用者が参画・交流を通じた学びを促進するために、学芸員が多様な主体と連携します(02)(B)(展示課)(連携)	利用者(連携者)が「満足した」割合(75%)※4段階の4のみ 計測不可 各事業において、満足度ははかる仕組みを構築できていなかったため、計測ができない。	・利用者(連携者)に対して、アンケート調査をほとんど実施していないため、評価ができない。 ・ミュージアムパートナーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により活動が制約を受け、事業数も減少した。満足度は未調査のため不明であるが、会員継続の割合は、前年度会員の87.4%であった。この割合は活動に対する一定の評価と見ることできるが、令和2年度の活動状況から考えると、3年度の活動に対する期待値と見るべきである。 ・コーポレーション・デーは、予定していた6件のうちの実施できたのは、三重県環境保全事業団の1件(来館者364人)のみとなった。連携者の満足度は不明であるが、前年度の当該コーポレーション・デーの来館者数4,003人との比較では、県民・利用者の参画・交流機会は大きく減少している。 ・研究機関等との連携について、三重大学等と連携を行った。	・多様な主体との連携は、内部評価にも「アンケート調査をほとんど実施していない」とある通り、先の戦略3と同様に評価の前提となるデータが無いため、評価不能と判断した。 ・戦術10の評定が「4」であることから、事業を実施しながら評価不能に終わったことが惜まれる。	8	2 ↓ 3	利用者数(1,700人)	利用者数 439人	・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響で、ミュージアムパートナーの活動を9月まで休止せざるを得なかった。 ・特に多くの利用者が見込めるミュージアムパートナーフェスタが中止になり、利用者数は目標値を大きく下回った。 ・10月より活動を再開したものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、対面形式や地域探訪型のイベントが開催できず、講演会形式のものに限定された。 ・イベント回数は前年26回から10回に減少した。 ・学芸員の積極的な協力により7回のミニ講座、トピック展特別講座を開催し、回数は少ないながらも充実した学習の機会を会員に提供できた。 ・上記のように、十分な会員サービスができなかったにもかかわらず、会員継続の割合は、前年度会員の87.4%であった。このことはミュージアムパートナーの活動再開への期待の表れであり、可能な限りのサービスの向上に努める責務がある。	・ミュージアムパートナーの活動は、コロナ禍の影響で上半期は休止せざるを得なかった。活動期間が例年の半分に制限されたことや、多くの参加者が見込める「フェスタ」行事が中止になったことを考慮すれば、十分な成果(利用者496人)を挙げたと判断でき、3とした。 ・こうした悪条件の中で、引き続き多くの会員が活動を継続するとのことであり、来年度以降も会員の期待に応える事業展開が望まれる。	
							9	1 ↓ 2	開催日の入館者数(10,000人)	開催日の入館者数(368人)	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、当館からの営業活動も制限され、かつ大規模な集客の事業が出来なくなった。そのため、例年実施していた企業についても、コーポレーション・デーの見合わせがあり、予定の件数を実施することはできなかった(6件中1件実施)。 ・このような状況の中、ポスター展を中心にコーポレーション・デーを実施いただいた三重県環境保全事業団の例をよく分析して、現状であっても利用が可能な業態の企業・団体のニーズを把握するとともに、博物館の広い空間を利用した密にならない形でのコーポレーション・デーの開催を検討する必要がある。	・コーポレーション・デーは、コロナ禍の影響を受け、予定していた6団体の内、1団体しか実施できなかった。積極的な集客行為が困難な中で、当日の入館者が368名(年間平均284人)であったことは十分とは言えないが一定の成果であり、2と判断した。 ・昨年度以前の活況が戻ることを期待したい。
							10	4	利用者数(700人)	利用者数28,353人	・三重大学生物資源学研究所附属館類研究センターと共同で、クジラに関するトピック展「クジラはいるか!？」を急遽8/1-11/29に開催し、17,209人が観覧した。 ・三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定に基づいた「三重県総合博物館・三重大学自然環境リテラシー学・連携企画」、岐阜県博物館交流企画「学校理科室に眠る標本は果たしてゴミか?」、三重県埋蔵文化財センターとの共催『三重の実物図鑑特集展示「三重の古墳時代」』を実施した。 ・農業研究所や皇学館大学は連携講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止した。	・「クジラ」展での三重大学との積極的連携や、岐阜県博物館との交流などを通じて、目標(700人)を大幅に上回る利用者(28,353人)を得たことで、4と判断した。 ・「クジラ」展に関わった大学側の学生等もこの機会に大きく成長できたとのことで、双方にとって有益な事業となった。 ・今後は、今年度予定しながら中止を余儀なくされた県立の他施設や他大学等との積極的連携による相乗効果の創出を期待する。
(B)館を利用してもらう	5	博物館の情報を効果的に利用してもらうために、学芸員が知的資源やその活用方法をわかりやすく伝えます(02)(B)(経営課)(利活用)	利用者が「目的の情報が得られた」とした割合(75%) ※「はい」の割合実績値:74%	・アンケートを実施した結果、目標値を達成できなかったため、「2.どちらかというと達成できていない」と評価した。 ・HPへのアクセス総数は直近5年間の平均以上となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、博物館の情報を活用する場としてネットにおける需要が高まったことが推察できる。 ・「MieMu@ほーむ」(年間閲覧数:12,533回)を開設し、自宅等からでも博物館の情報にアクセスできる方法を充実させた。 ・3月に開催した「MieMuフォーラム 三重の宝物」では、講演及びシンポジウムの内容をYouTubeでライブ配信を行い(閲覧回数:325回)、新たな取組を実践した。 ・県庁各部局の取組を評価する「MIE職員カアワード」において、全211件の応募・推薦の中から「MieMu@ほーむ」がグランプリに選ばれた。 ・企画展の中止を受け、情報誌では当館の調査研究の特集に変更し、展示の裏側にある地道な活動や、各職員の取組についてHP以外でも情報発信した。 ・『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、5事業6回のうち新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため2事業2回が中止となり、3事業4回で定員90名のところ73名の参加があった。 ・参加定員を減らし、参加者が密集状態にならないようにワイヤレスイヤホンを導入して実施した。	・知的資源やその活用法の伝達について、「県政eモニター」へのアンケート結果(922名)が目標(「目的の情報が得られた:75%」)にわずかながら達しなかったことから、2と判断した。 ・インターネットを中心にさまざまな情報が飛び交う昨今、目的の情報がより見つけやすい、早く到達できるための工夫が求められる。	11	4	博物館職員のwebページアクセス数(600回)	4,804回	・目標値を大きく上回り達成できたため、「4.達成できた」と評価した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休館をきっかけに「MieMu@ほーむ」(年間閲覧数:12,533回)を開設し、自宅等からでも博物館の情報にアクセスできる方法を充実させた。 ・企画展の中止を受け、情報誌では当館の調査研究の特集に変更し、展示の裏側にある地道な活動や、各職員の取組についてHP以外でも情報発信した。 ・HPへのアクセス総数は直近5年間の平均以上となった。直接来館する方法とは別に、博物館の情報を活用する場としてネットの需要が高まったことが推察できる。	・博物館の資源やその活用方法を利用者へ伝える事業については、コロナ禍の下で、「MieMu@ほーむ」(12,533アクセス)やフォーラムのライブ配信を通じて、効果的に発信できたと判断して、4とした。	
							12	2	利用者数(160人)	73人	・『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、5事業6回予定していたが、そのうち新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため2事業2回が中止となった。3事業4回で定員計90名のところ73名の参加があった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、参加定員を減らし、参加者が密集状態での講義形式にならないようにワイヤレスイヤホンを導入する等の対策を行い実施することができた。	・『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、5事業6回の内、2事業2回が中止を余儀なくされる中でもできる事業を実施し、予定数には満たないものの、一定の参加者を得たことから、2と判断した。 ・ワイヤレスイヤホンの導入にとどまらず、リモート事業の可能性も含め、安全を確保しつつ学ぶべき機会の創出を期待したい。

令和2年度MieMuの活動と運営 各戦略・戦術一覧

計画期間(4年):2020(令和2)年度～2023(令和5)年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面4年間(＝計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中 間	戦略目標	達成 度	戦略を評価するための指標		評価結果			達成 度	評価結果				
			アウトカム(成果)		内部評価	外部評価	戦術		アウトプット指標	アウトプット(実績)	内部評価	外部評価	
6	次世代の育成のために、学芸員が子どもたちの学習機会の充実を図ります(02)(B)(展示課) (学習交流・連携)	3	19才以下が「博物館での活動(学習)が楽しい」と感じた割合(75%)※4段階の4のみ 77%	22件のイベントアンケートのうち、年齢について回答があった19歳以下のものから分析。イベントの満足度を尋ねる設問(不満、やや不満、やや満足、満足)を、「活動(学習)が楽しかったもの」として分析。 回答者数 281件のうち 19歳以下の回答者数 157件 「満足(=楽しい)」回答数 121件(77%)	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、さんちゃんのお食事会を全て中止するなど、ワークショップなどを通して子どもたちに提供する学習機会は減少した。五感を使って体感できる事業の利用者は343人で、目標の1200人を大きく下回った。ただし、新たに解説の時間を設けるなど、きめ細かな対応ができ、内容の充実をはかることができた。 ・子どもが参加したワークショップや講座など22件の事業において、19歳以下のアンケートで、「博物館での活動(学習)が楽しい」と感じた割合は77%であった。目標は達成しているが、利用者が少ないことから、評価は「3」とした。 ・こども体験展示室は、令和2年度はほぼ1年間閉室し、閉室期間に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等の工事を行い、令和3年3月27日に限定運用のかたちで再開した。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による影響は受けたが、県内高校9校の探究的な活動を支援するとともに、各校が活動成果を発表する機会(「みえむ未来創成フォーラム2020『学校と地域連携』」)を提供することができた。なお、本事業は、学校が行う学習を支援するものであることから、成果指標の「博物館での活動(学習)が楽しい」には該当しないものであり、評価指標の対象外とした。	・子どもたちの学習機会の充実は、参加者数を指標とする戦術13や14の結果が「評価不能」や「2」であったが、戦略(アウトカム)指標であるワークショップ等での19歳以下の満足度が目標(75%)を超える77%に達したことから、3と判断した。 ・戦術13や14が人気の事業であることから、目標とした開催日数や実施回数を確保できる日が戻ることが待たれる。	13	子どもたちに学習の楽しさを伝えるために、こども体験展示室を充実させます(展示課)	1	こども体験展示室利用者数 (60,000人)	49人 (内訳) 3月27日(土) 午前の部 2組6名／午後の部 2組6名 3月28日(日) 午前の部 7組20名／午後の部 7組17名	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、令和2年2月27日から令和3年3月28日まで閉室しており、利用することができない状態が約1年間と長期に及んだため、「1. 達成できていない」と評価した。 ・室内の抗ウイルス・抗菌加工を行い、感染リスクの低減に努めた。 ・他館の子ども向け展示室の運営状況や、日本博物館協会ガイドライン、みえこどもの城での感染防止対策等を参照した上で、当面は土日のみに利用を限定し、入室人数の制限、定員入替制への変更、マスク着用・手指消毒のルーラー化等運営体制を改め、可能な限り利用いただけるよう工夫していく。	・子どもたちの学習機会の充実に関して、コロナ禍の影響で、校となる「こども体験展示室」が年間わずか2日しか開室できなかったため、「評価不能」と判断した。 ・こうした中、臨時交付金を得て、抗ウイルス・抗菌加工、床面の貼り替え等の実施など、再開に向けての努力は評価したい。
							14	子どもたちに学習の楽しさを伝えるために、学芸員が五感を使って体感できる様々な事業を実施します(展示課)	2	利用者数(1,200人)	利用者数395人	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、取組は難しいと考えていたが、ワークショップで利用する道具を参加者毎に分けたり、開催場所にアクリル板を設置する等の対策を実施して、一部活動を再開し実施することができた。 ・企画展や、子どもたちに学習の楽しさを伝えるため予定していたイベントが中止されたため、夏休み期間を中心に児童を対象とした「MieMu わくわくサマー」を開催した。ここでは、学芸員や専門家のおはなしを聞いて工作をしたり、化石を取り出す体験などイベント企画・運営した。 ・講座の定員を少なくしたが、その結果、個々の参加者との対応がより充実でき講座の質が上がった。	・子ども向け体験事業は、他の事業と同様にコロナ禍の下、実施や参加人数が限られる中で、安全対策を十分施しながらの実施となり、中止を差し引いた目標人数(758人)には届かなかったが、395人の参加者を得たため、2と判断した。 ・「調べ方」を学ぶ事業と同様に、今後、さらなる開催(実施)方法の工夫を重ね、事業を継続して欲しい。
							15	子どもたちが能動的な学びを体験できるように、学芸員が学校と連携して課題探究型学習を支援します(展示課)	4	支援した生徒数(1,500人)	2,077人	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、県立学校では5月末まで休校措置をとった。昨年度支援していた学校は、調査・研究を主とするこの活動を縮小して実施した。総合博物館は学校からの要望に応え、各生徒の活動を支援することができた。 ・今年度は、新たに東紀州、伊賀、志摩地域の高等学校からの依頼を受け、支援することができた。昨年度から引き続き支援している北勢、中勢の県立学校を含めて、「みえむ未来創成フォーラム2020『学校と地域連携』(中間発表会10月24日、生徒成果物発表会2月2日～21日)を実施することができた。 ・博物館から探究的な活動の支援を受けることができることが周知され、9校から依頼を受けることができた(令和元年度 SSH指定校4校から依頼を受けた)。	・課題探究型学習による支援は、5月末までの県内高校の休校にもかかわらず、再開後は9校を対象に33回に亘って実施し、2,077人(目標1,500人)の支援ができたため、4と判断した。 ・博物館で学習した成果を発表できる場を提供できたことは評価できる。
7	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します(経営)【副館長】	3 1 2	各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性) (副館長レビュー)	・コロナ禍の中、少しでも自宅で過ごされている子どもたちに楽しんでいただけるようネットで利用できる「MieMu@ほーむ」を開設した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響により、令和2年度の企画展がすべて中止となったが、2本のトピック展(「クジラはいるか!?」と「昔の道具を考える」)を開催し、県民のみならずに楽しんでいただいた。 ・令和2年度の企画展が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により全て中止になったことから、令和3年度の企画展については、①年3回を2回に削減し、②長期の会期を設定し来場者の集中を回避するとともに、③展示資料を館蔵・県内所在資料を主体とし感染状況が悪化した場合でも開催できるよう工夫をした。	・本戦略の目的が「評価制度の活用」であり、評価指標が「各事業のコストパフォーマンスの改善」である以上、戦略3及び4において、評価の基礎・前提であるアンケートを通じたデータ取得を怠ったことは看過できず、2と判断した。 ・来年度以降、こうした事態が起こらないよう、再発防止策づくり、確実な実施を求めたい。	16	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います(経営課)	3	確認によって判明した課題の件数(7件)	確認によって判明した課題の件数(7件)	・四半期毎に進捗管理のための全体会を開催し、進捗状況について全員で共有することができた。 ・課題を明らかにすることができ、改善策や取り組み方針について協議することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、改善が進んでいない取り組みがみられた。	・業務の改善に向けた定期的な進捗管理については、一定数(7件)の課題を明らかにし、改善に取り組めたことから、3と判断した。	

【達成度】(※4段階評価:1. 達成できていない、2. どちらかという達成できていない、3. どちらかという達成できた、4. 達成できた、－. 評価不能)

○戦略外の評価項目

・評価士による評価制度に対するレポート

○用語

・戦略目標: 計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと
・戦術: 戦略目標達成のために、具体的に取り組むこと

○評価体制

内部評価: 内部評価委員会(中世古・瀬川・星野・寺村・中村)

外部評価: 博物館協議会評価部会

評価結果を報告、意見聴取

→博物館協議会

評価者の階層	①自己点検評価 → ②内部評価 → ③外部評価
評価者	館担当課・者館内部評価委員会 → 博物館協議会評価部会
評価作業内容	・指標データ整理・評価結果(価値判断) ・評価結果(価値判断)・改善視点

○マネジメントのしくみ

